

成人看護学援助技術	3年・後期	1単位	教授 本吉 美也子 他
科目カテゴリー	看護提供のあり方	科目ナンバリング	33210663

1. 授業のねらい・概要

本科目は、健康障害および機能障害を持つ成人の看護実践に必要な、アセスメント能力と看護過程展開の各段階において必要な援助技術、看護機器の取り扱いについて学習する。

2. 学修の到達目標

1. 循環・呼吸その他の問診とフィジカルアセスメントができる。
2. 成人期の患者と家族の心身の問題を理解し、看護の役割と援助のあり方を理解できる。
3. アセスメントデータベースを用いて患者の看護問題を把握し、具体的援助方法を立案できる。
4. 生体情報モニターの役割や使用法を理解できる。
5. 危険予知トレーニング方法を用いて、実施しようとする看護援助の危険予知について理解できる。
6. ストーマケアや胸腔ドレナージなど、成人看護学に必要な看護技術について理解できる。
7. 看護の要約、退院サマリー、カンファレンスの運営などについて理解できる。

3. 授業の進め方

講義および演習を中心に行う。演習はA・B、2グループに分けて実施する

4. 授業計画（演習）

1・2. 本科目の学習内容と方法・看護過程の展開・要約 (本吉美也子)	9・10. 演習A：成人看護で必要な看護技術 (本吉・本多)
3・4. 演習A：バイタルサイン測定、フィジカルアセスメント 問診、コミュニケーション(本吉・本多恵子) 演習B：胸腔ドレナージ (片貝智恵)	演習B：生体情報、ストーマケア (片貝)
5・6. 演習B：バイタルサイン測定、フィジカルアセスメント、 問診、コミュニケーション(本吉・本多) 演習A：胸腔ドレナージ (片貝)	11・12. 演習B：成人看護で必要な看護技術 (本吉・本多) 演習A：生体情報、ストーマケア (片貝)
7. 演習の振り返りとコミュニケーション(本吉)	13. 演習：危険予知トレーニング(千明政好)
8. カンファレンスの運営(本吉)	14. 演習：危険予知トレーニング(千明)
	15. 家族が抱える看護問題とケア(千明)

5. 成績評価の方法・基準

評価は、定期試験(70%)、平常点・課題レポート(30%)を基準として総合的に評価する。

6. テキスト・参考文献

テキスト：1) 山下香枝子他編著：系統看護学講座専門Ⅱ成人看護学[2]呼吸器[3]循環器[5]消化器
[6]内分泌・代謝[7]脳・神経，医学書院。
2) 任和子他編著(2015)：実習記録の書き方がわかる看護過程展開ガイド-ヘンダーソン・
ゴードン・NANDAの枠組みによる，照林社。
3) リンダJ.カルペニート=モイエ著，新道幸恵監訳：看護診断ハンドブック，医学書院。
参考文献：随時紹介する

7. 準備学習に必要な時間，又はそれに準じる程度の具体的な内容

シラバスの授業計画の範囲について，1時間の予習と1時間の復習を必要とする。

8. 受講上の留意事項

急性期成人看護学実習の先修科目である。

9. 課題に対するフィードバックの方法

試験終了後，口頭または掲示で解答や解説を周知する。

10. 卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連

必修科目であり，修得できない場合進級不可となる。

11. 実務経験のある教員等による授業科目

医療機関における看護師としての実務経験を活かして，講義・演習を行う。